

「2020 広島教区代表者会議」の分科会テーマ（素案）とお願い

広島教区の皆様、各地区の宣教司牧評議会の皆様へ

＋主の平和

新型コロナウイルス感染症が様々な影響を及ぼしている中で、今年の11月23日に予定されていた「2020 広島教区代表者会議」を来年に延期することについて、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

教区代表者会議の準備のスケジュールも大幅に見直すことを余儀なくされていますが、この状況は、むしろ教区代表者会議をじっくりと準備するために恵まれた好機であると前向きに捉えることができます。

そこで、今年度は、皆様からご提示がありましたアンケート結果をもとに、教区代表者会議でなされる分科会テーマを決定して、それを基に分ち合いをおこない、皆様からの意見や提案をいただくことに力を注いでいければと思います。今秋、各地区で開催される地区宣教司牧評議会に、次のことを議題として取り上げ、皆様からの意見や提案をお寄せいただければ幸いです。

2020年8月

広島教区代表者会議実行委員会

1. 分科会テーマ（素案）の作成の背景【解説】

(1) 「教区代表者会議」とは

「教区代表者会議」とは、司教自身が必要に応じて招集し、規定にしたがって選出された教区内の司祭、修道者、奉獻生活者、信徒の代議員が集まり、教区全体の善益のために、宣教司牧に関連する事柄を、①調査し、②検討し、③実証的な結論を提示して、司教を助けるための特別な評議会（諮問機関）のことで（『教会における司教の司牧任務に関する教令』27、『カトリック教会法典』第460条、参照）。

その後、司教は、この教区代表者会議で示された具体的な結論を基にして、教区全体の宣教司牧のために重要な決定をおこなうこととなります。

教区では、過去に2回（2005年・2010年）、「教区代表者会議」が開催されて、教区全体の宣教司牧の大きな方向性（方針）、優先的に取り組むべき課題などが提示されてきました。

白浜司教は、おもに教区創立100周年（2023年）後の教区の宣教司牧のあり方を具体的に検討していくため、昨年10月（福音宣教の特別月間）に、3回目となる「教区代表者会議」の開催を宣言されました。今年11月23日に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、その開催が1年間延期されることになりました。

(2) 「教区代表者会議」の開催準備

「教区代表者会議」の開催には、①調査し、②検討し、③実際的な結論を導き出すために、事前の準備が必要であり、この準備過程こそが重要です。そのために教区代表者会議実行委員会が設置され、これまでに、宣教司牧に関連するアンケート調査を実施して、その結果報告がなされています。

今後は、そのアンケート結果を基にして、教区代表者会議でなされる分科会テーマを決定していくことが重要になります。それは、分科会テーマを中心にして今後、小教区や地区で分かち合いや議論を行ない、それをお知らせいただくことが、教区の皆様からの意見や提案を、教区代表者会議の提言に反映する、よい準備となるからです。

今回提示する分科会テーマ（素案）は、次の3つのことを、大枠にして作成しています。

- ①過去の教区全体の課題を振り返り、今後、教区全体で取り組んでいく課題に関すること
- ②今回、実施されたアンケートの集計・分析結果から抽出された課題に関すること
- ③分科会テーマ（素案）は、背景にある諸問題にも、目を向けたものであること

(3) 分科会テーマの分類の枠組み

今回、提示する分科会テーマは、以下の分類の枠組み（カテゴリー）に基づいた素案です。

①教区創立 100 周年の迎え方と祝い方のテーマを分離する

アンケートの質問事項にあった創立 100 周年の迎え方と祝い方については、今回の教区代表者会議の分科会テーマから切り離し、「平和の使徒推進本部」に具体案の検討を依頼して、教区宣教司牧評議会にて、決定していただくこととなります。

②総合テーマ「ともに喜びをもって福音を伝える教会へ」に方向づける

これまでわたしたちは創立 100 周年に向けて「チャレンジ：新しい福音宣教～わたしをお使いください～」という総合テーマで、教区の宣教司牧活動に取り組んできました。

この大きな方向性を受け継いで、創立 100 周年後にも新しい福音宣教へのチャレンジを「ともに喜びをもって」推し進めていくため、今回の教区代表者会議を開催します。

③教区の「3本柱」と教会の根本的な「3重の使命」の混同を避ける

2006 年の司教宣言以来、広島教区ではその宣教司牧活動において、「平和」・「きょうどう」・「養成」というテーマを「3本の柱」として強調してきました。

前回の教区代表者会議（2010 年）後に作成した「2012 年の新ガイドライン『平和の使徒となあ～れ！』」では、「平和」・「きょうどう」・「養成」に加えて、「平和」の中に含まれていた「多文化共生」が 1 つの区分として独立し、この 4 つが、重要な実践テーマとして導き出された経緯があります（3本柱と 4 つの推進事項）。

ただし、「3本の柱」が教会の根本的な「3重の使命（預言職・祭司職・王職）」と混同されてしまった節があります。

そこで今回の教区代表者会議では、「ともに喜びをもって福音を伝える教会」を目指すために、教会の根本的な「3重の使命（預言職・祭司職・王職）」が土台であり、さらに

「ともに喜びをもって」新しい福音宣教へのチャレンジを推進していくことを再確認します。

④「3本の柱」を「実践テーマ」に戻す

以下に列挙するアンケート結果から抽出されたキーワードの多くは、過去の教区代表者会議の中で提示された「平和」・「きょうどう」・「養成」・「多文化共生」に深く関連し、アンケートの中で、この4つの実践テーマを引き続き推進していく重要性が指摘されています。ただし、「きょうどう」（平仮名表記）は、そこに複数の意味を込めるためでしたが、逆にそれが意味をあいまいにして分かりにくかったという意見もありましたので、今回、「きょうどう」という平仮名表記を改め、教区が推進している「協働体制」の「協働」に合わせることにしました。また、「多文化共生」が、「平和」の中に含まれていたことを踏まえて、順序を「平和」・「多文化共生」・「協働」・「養成」としています。

⑤「実践テーマ」に新たなテーマを加えて、「推進テーマ」という表現へ

「平和」・「多文化共生」・「協働」・「養成」という4つの実践テーマに、今回の教区代表者会議で重要な視点となる「新しい福音宣教（新しい様式）」というテーマを追加して、4つの「実践テーマ」を、5つの「推進テーマ」という表現に変更しています。

新たに加わった「新しい福音宣教」とは、「単なる現状維持を目的とした司牧から積極的に宣教する司牧」することです。

2. 分科会テーマの標語（素案）とキーワード

アンケートから抽出されたキーワードを、5つの「推進テーマ」に分類し、さらに標語化して分科会テーマ（素案）としています。アンケートから抽出されたこれらのキーワードは、各分科会の中で取り扱われる具体的な課題を示すものでもあります。なお10の標語（素案）については皆さまからのご意見を加味して、今後、さらに修正していきたいと思えます。

(1) 新しい福音宣教（新しい様式）

- ①祈りと活動を通して、みんなとともに喜びをもって福音を伝えよう
- ②新しい体制、取り組み、様式を具体化して、福音宣教を推進しよう

【キーワード】

- ◆教会の一員として、「役」を担ってもらうより、「喜び」を感じてもらうことを優先に
- ◆教区の目標（方針、テーマ、優先課題）の推進と継続性（フォローアップとサポート）
- ◆「平和」・「きょうどう」・「養成」のようにテーマ（3本柱）化することの是非
- ◆目標（テーマ）を「具体案（具体的行動）」で示すことの是非
- ◆小教区・協働体・地区・教区レベルで独自の振り返りや、評価の必要性
- ◆「教会行事が多い」との声に対する懸念と解消について
- ◆「祈り」と「行動(活動)」の調和を目指して
- ◆ミサの減少と司祭不在のときの主日の集会祭儀の広がり（取り組み）について
- ◆青少年（働き世代含む）が教会に集うためには
- ◆青少年（働き世代含む）に役を担ってもらうためには
- ◆SNS等の活用が、新しい福音宣教のためのひとつの手段に

(2) 平和

- ③身近な平和から社会（世界）の平和を実現する「平和の使徒」となろう
- ④教会から離れている人とのきずなを大切にし、その想いを聴こう

【キーワード】

- ◆教皇フランシスコのメッセージ「すべてのいのちを守るために」
- ◆戦争や核兵器の廃絶のために、わたしたちがすべきこと、わたしたちにできること
- ◆私たちは喜びをもって未信者の人、教会から離れている人を招いているだろうか
- ◆教会を離れた人への呼びかけと交わり、特に受洗後の教会離れ
- ◆教会から離れている人の声を聞こう（声が聞きたい）

(3) 多文化共生

- ⑤言葉や文化の違いを受け入れ、互いに理解し合い、協力しよう
- ⑥教会に集うすべての人が、温かさを感じる「神の家族」を目指そう

【キーワード】

- ◆すべての信者が教会に集い、ミサに与ることで「安らぎ」を感じてもらえるように
- ◆国際ミサの推進と母国語ミサの大切さ、実施する頻度と日本語ミサとの調和
- ◆在住外国籍の人との交わり、言葉（言語）の壁を乗り越えて
- ◆在住外国籍の人の教会体制・委員会等への参画を推進する
- ◆在住外国籍の人に、教会維持費の必要性の理解と協力を
- ◆在住外国籍の人の支援体制づくり（日本語教室、生活相談窓口など）
- ◆在住外国籍の人の理解のために（外国語教室、外国文化に関する教室など）
- ◆小教区によっては、在住外国籍の人が少ないところもある。こうした認識も必要

(4) 協働

- ⑦様々な課題を共有して、ともに考え、助け合い、一緒に乗り越えよう
- ⑧互いの違い(差)を受け入れ、互いの思いを伝え合い、協働しよう

【キーワード】

- ◆少子高齢化の今、わたしたちが取り組むべきこと
- ◆小教区体制（組織・行事など）の簡素化と見直し
- ◆小教区の統廃合への危惧
- ◆協働体制の推進について
- ◆小教区・協働体レベル、地区レベルの推進力を高めていく必要性
- ◆小教区の「違い(差)」についての課題
- ◆協働体・地区の「違い(差)」についての課題
- ◆小教区内・協働体内・地区内での宣教司牧活動の「違い(差)」
- ◆「違い(差)」があるのは当然のこと、それを受け入れ、乗り越えて行くこと
- ◆小教区内・協働体制内・地区内の信者への情報伝達と共有
- ◆「伝える」こと大切さ
- ◆高齢の人に伝えることの壁を乗り越えて

- ◆聖職者・修道者・カテキスタと信徒の交わり
- ◆司祭同士、修道者同士、信徒同士、あらゆる立場での互いの交わり
- ◆距離的弊害、移動の不便さがある中山間地域に住む人との交わり
- ◆青少年（子ども含む）との交わり
- ◆人と人との「交わり」を大切に

(5) 養 成

- ⑨互い（司祭、修道者、信徒）の召命をともにはぐくみ、支え合おう
- ⑩互いの生涯養成やリーダー養成を通して、次世代へ信仰を継承しよう

【キーワード】

- ◆司祭・修道者・信徒の高齢化と減少
- ◆召命促進のために、わたしたちができること
- ◆受洗後の信仰養成の不足と生涯養成の大切さ
- ◆司祭の生涯養成、信徒の生涯養成、子を持つ親の養成、入信前後のケアなど
- ◆教会学校の大切さとリーダーの養成、カテキスタの養成
- ◆在住外国籍の人のリーダーの養成

3. 各地区・小教区へのお願い

(1) 分科会テーマの標語（素案）についての意見や提案をお寄せください。

前項の分科会テーマ(素案)について、各地区の宣教司牧評議会から、各小教区に向けて、意見や提案の提出をお願いしてください。そして、各地区は、小教区から出された意見や提案をまとめて、代表者会議実行委員会へ、2020年11月14日までにお知らせください。

(2) 小教区からの代議員候補（代表者会議出席）の選出について

分科会テーマは、同時に、教区代表者会議の当日、そのテーマを希望して出席を考えていただく代議員の選出に関わるものでもあります。各小教区が、日々、どのような課題を抱え、どのテーマに興味があるか、そのため、代議員としてだれを選出すればよいのかを、早めにイメージしていただくことも必要です。

現在、準備段階の全体的なスケジュールでは、来年1月に、各地区で行われる地区宣教司牧評議会において、代議員の選出の依頼をする予定です。その際、具体的な選出の規定を提示したいと思います。各小教区の代議員の選出については、年度をまたぐこと、その他の諸事情があると思いますので、この時期、代議員候補の選出を見据えて、そろそろ小教区、地区での働きかけをお願いします。

4. 今後のスケジュール

- ① 2020年9月～10月に開催予定の各地区宣教司牧評議会、分科会テーマ（素案）を提示。
- ② 各地区は各小教区に意見の提出を依頼し、各地区がまとめて代表者会議実行委員会へ提示。
- ③ 2020年12月開催予定の教区宣教司牧評議会、分科会テーマ（案）を提示。
- ④ 2021年1月開催予定の各地区宣教司牧評議会、分科会テーマ（案）について意見を伺う。
併せて、小教区からの代議員選出を依頼するための規定を提示。
- ⑤ 2021年3月の教区代表者会議実行委員会で、分科会テーマを確定し、公表する。
- ⑥ 2021年6月開催予定の教区宣教司牧評議会、代議員を確定する。その準備のために、
2021年5月頃、分科会の最終テーマ、代議員の選出に関する手紙を配布する。
- ⑦ 小教区から選出された代議員を中心に、可能であれば、分科会のテーマを推進する具体的な
提言(案)を、小教区、地区、各種の委員会から提出していただくように奨励する。
- ⑧ 2021年7月～8月、事務局で、分科会テーマに関連した具体的提言（素案）を作成。
- ⑨ 2021年9月～10月に開催予定の各地区宣教司牧評議会に具体的提言（素案）を提示。
- ⑩ 2021年11月上旬に、教区代表者会議に提出する具体的提言（案）を、事務局で作成。
- ⑪ 2021年11月23日、教区代表者会議が、司教に提示する具体的提言を審議して採択。

以上